

CSS と JS の取り扱い

2022-05-26 三宅 節雄

ホームページのファイル構成の最近の流行では

1. 内容が書いてあるファイルは「HTML ファイル」
2. 見た目が書いてあるファイルは「CSS ファイル」
3. 「動作が書いてあるファイル」はプログラミング言語『JavaScript』で書かれ「JavaScript ファイル」や「js ファイル」
4. 絵が描いてあるファイルは「画像ファイル」

から構成されています・

1. CSS や JS ファイルを独立させ、HTML に定義する

場所は<head>と</head>内に下記の様に記載する

```
<!DOCTYPE html>
<html lang="ja">
<head>
<meta charset="UTF-8">
  <link href="style.css" rel="stylesheet">
  <script src="script.js"></script>
</head>
<body>
  :
</body>
</html>
```

2. CSS や JS を HTML に組み込む

① CSS 本文を<style>と</style>で挟んで

HTML の<head></head>間に記載します

② JS 本文を<script>と</script>で挟んで

HTML の<body></body>間に記載します

下記はHTML に組み込んだ例ですが

スタイルシート (CSS) や Javascript (JS) を別ファイルにする場合は、緑枠内を独立させる
<style>、</style>、<script>や</script>は不要で、HTML から消す。

```
1 <html>
2 <head>
3   <title>キー入力</title>
4   <style>
5     #rico {
6       position: absolute;
7       top: 0;
8       left: 0;
9     }
10  </style>
11 </head>
12 <body>
13   <script>
14     //画面に画像を表示する
15     document.write( '' );
16
17     //キャラクターを位置
18     var y = 0;
19     var x = 0;
20
21     //なにかキーが押されたとき、keydownfuncを呼び出す
22     addEventListener("keydown", keydownfunc, false);
23
24     function keydownfunc( event ) {
25
26         //押されたボタンに割り当てられた数値 (すうち) を、key_codeに代入
27         var key_code = event.keyCode;
28
29         if( key_code == 37 ) x -= 32;    //「左ボタン」が押されたとき、xの値から32を引き算する
30         if( key_code == 38 ) y -= 32;    //「上ボタン」が押されたとき、yの値から32を引き算する
31         if( key_code == 39 ) x += 32;    //「右ボタン」が押されたとき、xの値に32を足し算する
32         if( key_code == 40 ) y += 32;    //「下ボタン」が押されたとき、yの値に32を足し算する
33
34         //りこちゃんの画像の位置 (いち) を反映 (はんえい) させる
35         document.getElementById( 'rico' ).style.top = y + "px";
36         document.getElementById( 'rico' ).style.left = x + "px";
37     }
38   </script>
39
40   </body>
41 </html>
```

スタイルシート (CSS)

JavaScript

html本文は、body内に入れる